

2012年度 事業計画（抜粋）

（2012年4月1日から2013年3月31日まで）

学校法人 明星学苑

2012 年度事業計画（抜粋）

【目 次】

I. 明星学苑が目指すもの	1
1 建学の精神・教育方針・校訓・明星学苑がこれからも変わらず目指すもの	1
2 各校の教育目標	1
3 各校の教育内容と教育方法	2
II. 学苑の確かな未来に向けて－「明星学苑 Action100」の推進（省 略）	
1 学苑の使命を果たすために～「明星学苑 Action100」の目的～（省 略）	
2 「明星学苑 Action100」を構成する6つの柱（省 略）	
3 「明星学苑 Action100」6つの柱の連動（省 略）	
4 これからの「明星学苑 Action100」（省 略）	
III. 2012 年度事業計画（省 略）	
1 はじめに（省 略）	
2 重点事業（省 略）	
① 創立 100 周年に向けた新しい明星学苑像づくり（省 略）	
② 責任と信頼に基づく学苑経営体制の整備（省 略）	
③ 人材の活性化－学苑の基盤を支える人事制度の改善－（省 略）	
④ 運営基盤の整備（省 略）	
⑤ キャンパス環境の整備（省 略）	
IV. 各部門の事業計画の概要	3
1 明星大学	3
いわき明星大学（省 略）	
2 府中校（省 略）	
3-1 府中校全体の基本方針（省 略）	
3-2 明星中学高等学校（省 略）	
3-3 明星小学校（省 略）	
3-4 明星幼稚園（省 略）	
V. 2012 年度予算の概要	13
1 予算編成方針	13
2 予算編成の結果	13
資料 別表 1（設置校在籍者数）	14
別表 2（資金収支予算書）	15
別表 3（消費収支予算書）	15

I 明星学苑が目指すもの

1. 建学の精神・教育方針・校訓・明星学苑がこれからも変わらず目指すもの

＜建学の精神＞

「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」

【教育方針】 1. 人格接触による手塩にかける教育 2. 凝念を通じて心の力を鍛える教育 3. 実践躬行の体験教育	【校訓】 健康、真面目、努力
---	------------------------------

《明星学苑がこれからも変わらず目指すもの》

明星学苑は、建学の精神である「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」
ことをもって社会に寄与することをその使命とする。

そのために、学苑が設置する学校は、校訓「健康、真面目、努力」を旨とし、
一人ひとりの学生・生徒・児童・園児を大切にして徳育・知育・体育の調和を目差す
「人格接触による手塩にかける」教育を行ない、着実に教育の成果を上げることに努める。

2. 各校の教育目標

明星大学	自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成
いわき明星大学	全人教育に基づいた、地域社会に貢献できる人の育成
明星中学高等学校	自律心を持った自立した人の育成
明星小学校	正直なよい子の育成
明星幼稚園	よい子の育成

3. 各校の教育内容と教育方法

<p>明星大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得 ●幅広い教養を身につけた自立する市民の育成 ●心と体の健康管理の教育 ●高度専門職業人及び幅広い職業人の育成 ●体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育
<p>いわき明星大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大学で学ぶ意識を高める少人数・演習形式の初年次教育 ●さまざまな学修歴をもつ学生に対応した効果的な基礎教育 ●時代を見据え、地域に根ざし、体験を通して学ぶ専門教育 ●専門を超えた探究心と充実した心身を育む教養教育 ●きめ細かな個別指導と快適な自習環境の提供による学習支援
<p>明星中学高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●凝念教育 ●3ステージ制による6カ年一貫教育 ●文化等の違いを体験し、国際理解を深める教育 ●地域社会との連携による教育(ボランティア活動等の体験教育) ●学苑設置校(幼・小・大)との連携とIT教育
<p>明星小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●凝念教育 ●五正道(正しく視る、正しく聴く、正しく考える、正しく言う、正しく行う)の実践 ●豊かな心を育てる教育(心の教育、道徳・躾、体験学習、きめ細かな生活指導等) ●確かな学力をつける教育(授業の充実、きめ細かな学習指導等) ●総合学園の特色を生かした教育
<p>明星幼稚園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「みなしずか」(凝念)の実践 ●一人ひとりを大切にし、心身ともに元気な子を育てる保育 ●基本的生活習慣の確立 ●体験を通して学ぶ ●総合学園の特色を生かした保育

IV 各部門の事業計画の概要

1. 明星大学

① 基本方針

明星大学は、設置者である学校法人明星学苑の建学の精神に基づき、高等教育機関として「自己実現を目指し、社会貢献ができる人の育成」を目標とし、学部学科においては学士力の獲得、大学院においては高度専門職業人や研究者の養成を柱に、教育研究活動を展開します。

それと同時に、学生生活や課外活動への支援の充実などに関する事業を展開します。

事業の展開にあたっては、全学的に、以下の教育方針に基づきます。

- 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- 心と体の健康管理の教育
- 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- 体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育

この教育方針の基で教育の在り方を不断に見つめ直し、「教育の明星」を具現化した教育研究活動を通し、将来に亘って社会・時代の要請に応え続けるための、安定した財政基盤の構築を目指し、本学では2015（平成27）年度に向けたロードマップ（達成目標）を策定しています。

このロードマップ（達成目標）には、大学全体の目標値を①進路決定率（90%以上）、②志願者数（一般入試20,000人以上）、③離籍率（4.0%以下）、④科学研究費補助金の獲得額（私学上位50位以内）、⑤帰属収支差額比率（収入超過率10%以上）と定め、その進捗状況や達成状況は、「MI21プロジェクト※」の活動を通して継続的に検証していきます。

※ MI21プロジェクトは、中長期的な重点戦略（目標）間の関係を明らかにした、「全学戦略マップ」を基に、「バランス・スコアカード」において、各戦略の具体的な成果目標を定め、PDCAサイクルを回しながら事業を展開する、全学的な取組です。

② 2012（平成24）年度の重点課題

2012（平成24）年度は、昨年度の第三者評価（認証評価）の際の（財）大学基準協会からの指摘事項に可及的速やかに対応するとともに、基本方針で示したロードマップ（達成目標）の実現に向け、重点課題として次の各事業を掲げ、特に注力して教育研究活動を展開していきます。

その他の事業についても、MI21プロジェクトの活動を通して、教育の質的向上を目指し積極的に展開していきます。

また、2年後の2014（平成26）年に迎える開学50周年に向けた準備に着手します。

1) 第4次改組改編計画の推進

理事会において検討している「将来構想委員会答申」を踏まえ第4次改組改編計画を推進します。

2) キャリア教育の充実と全学的展開

今年度から全学共通科目として新たに設置した「自立と体験3」「自立と体験4」を既存の教育課程等と効果的に連携させ、全学的にキャリア教育の充実を図ります。

3) 学生支援体制の充実

「学生カルテ」の効果的な運営や教職員の学生対応スキルの向上を図るなど、「人格接触による手塩にかける教育」を実践します。

4) 個別指導体制の強化

GPA 制度の本格導入から3年を経たことを踏まえ、「学生カルテ」活用と併せて、学生の個別指導の体制を強化します。

5) 初年次教育の充実と発展

全学共通の必修科目である「自立と体験1」の授業内容を更に充実させ、学習面、生活面ともに早い段階で大学生活に適応できるよう支援を充実します。

6) 大学の国際化の推進に向けた外国人留学生受け入れの拡大と支援体制整備

海外学術交流提携校との連携強化や在日日本語学校との交流の活性化により留学生数の拡大を目指します。また、今年度から国際教育センターの中に設置された「留学生支援課」において個々の学生のニーズに即した支援を行います。

7) 教育研究活動の主体である教育研究態勢の支援に資する施策の展開

教育課程を適切に運営していくための、中長期的な教員構成（職位・年齢）に関する基本方針の策定に着手します。

8) (財)大学基準協会からの指摘事項の改善活動の推進

(財)大学基準協会から指摘を受けた大学の国際化や研究活動の活性化、授業アンケートの活用などに対する改善活動を、各部局で策定した改善計画に基づき推進していきます。

③ MI21 プロジェクトに基づく教育改革の推進

MI21 プロジェクトにおける全学戦略マップには、プロジェクトの趣旨である教育の質的向上（教育改革）を目指した戦略を中心に、主たるステークホルダーを学生・保護者・高校生・地域・企業と定め、各ステークホルダーに特定した目標を掲げています。

本学では、全学戦略マップに掲げた戦略目標に基づく以下に示す取り組み（事業計画）を、教育研究活動の全学的な行動指針として、各部局で具体化した事業を展開します。

○ 実社会とつながるカリキュラムの強化

1) 初年次教育の充実と展開（「自立と体験1」の充実）

- ・ 本学の教育目標を達成するための第一歩として1年生の必修科目として設置している「自立と体験1」の授業内容を更に充実させ、「明星教育センター」を中心に運営します。
- ・ 「自立と体験1」では、全ての新生がまず「明星大学の学生」になり、「明星大学に学ぶ学生としての自分を理解し、各自の理想や目的を明確にする」ことを目標に授業を展開していきます。

2) キャリア教育の充実と全学的展開（「自立と体験3・4」の全学的展開）

- ・ 今年度から新たに設置した「自立と体験3」「自立と体験4」を「明星教育センター」を主たる支援者とする全学共通キャリア教育科目として展開します。
- ・ また、各学部学科で運営している「自立と体験2」を基盤とする一連のプロジェクト参加

型授業や実践的授業等を充実させキャリア教育の強化を図ります。

- ・ 正規教育課程のほかにも、社会人に必要な基礎的な能力といわれている、考える力やコミュニケーション力等を開発する、プロジェクト参加型の養成講座等の充実を図ります。
- ・ キャリアセンターを中心に学部学科との連携を強化し、教職共同でキャリア教育体制を充実させます。

3) 教育システムの充実

- ・ 本学の教育方針である「体験教育」を具現化する教育を精力的に展開します。

【体験から学ぶ授業「自立と体験」】



明星大学の伝統的な教育方針である「体験教育」を重視し、その体験を自分で生かしていくための授業です。

講義、ワークショップ、フィールドワークなど、学部・学科ごとに講義内容が組み立てられており、自己を発見しながら人生観や職業観を養っていくことを目的としています。(写真はフォーミュラカー競技会参加プロジェクトの授業)。

- ・ 教育の質的保証の指標として全学的に導入した GPA 制度を活用した教育・履修指導システムの改善・構築を進めます。
 - ・ 全学的に実施するプレイスメントテストを活用し、学生の学力に応じた授業運営および基礎学力の向上に繋がります。また、全新入生を対象に実施するアセスメントテスト結果をアドミッションの視点からも活用します。
- 4) 各学部学科の教育課程等の検証（課程編成上のガイドラインを目標にした授業運営の実践）
- ・ 各学部学科の人材養成の目的と3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）の関係、それらと教育課程や教育内容、時間割編成との関係について検証を行います。
- 5) 授業アンケートの活用による教育の質の向上（授業満足度の向上）
- ・ 原則として全開講科目について行っている「学生による授業アンケート」の回答内容や分析結果を活用した授業改善システムの構築や自己評価の導入、教員間の相互評価（ピアレビュー）等に関する取り組みを推進します。

○ 社会で生き抜く力の育生（学生支援体制の充実）

1) 就職支援体制の充実

- ・ 自分で活動し自分で決めることの出来る学生を育成するため、初年次以降のキャリア教育や充実した就職講座を徹底することによって、就職率を向上させます。
- ・ 「就勝プロジェクト」を初めとする就職支援等を目的とした課外講座として、就職に役立つビジネスマナー講座、情報処理に関する講座、公務員講座等を開設します。
- ・ インターンシップ等の実社会体験を伴う実践的な授業の量的・質的充実を図ります。
- ・ 「キャリアアドバイザー」制度等を充実させ、教職共同で学生の就業意識の醸成に向けた取組を推進します。
- ・ 「教職センター」を中心とした教員採用試験対策講座等の充実を図ります。

2) 学友会運営組織の活性化支援

- ・ 学友会運営委員会、体育会・文化会本部の組織、機能を活性化し、学友会組織全体の活性

化を支援します。

3) 部活動、サークル活動の活性化支援

- ・ 育星会の協力を仰ぎながらクラブ、サークルへの支援を充実させます。また、運動系・文化系を問わず強化クラブへの支援を継続します。

【クラブ・サークル棟 “Ponte (ポンテ)” が完成】



クラブ・サークル活動の新たな拠点として、31号館 "Ponte (ポンテ)" が完成しました。

ポンテとはイタリア語で「架け橋」という意味です。この新しいクラブ・サークル棟が、学生間の活発な交流を生み、明星大学全体のさらなる飛躍へと導いていくことの一から名づけられました。

4) ボランティア活動への支援体制の充実

- ・ ボランティアセンターにおいて、学生の自立性、主体性の一層の向上および体験教育の実現の機会であるボランティア活動に対する支援体制を充実します。
- ・ ボランティア活動の機会を拡大するため、学外のボランティア団体や地域と大学の連携体制を強化します。
- ・ 「東日本大震災」の被災地における継続的なボランティア活動を推進します。

【ボランティア活動】



平成22年1月にオープンした Star★Shops は、体験教育として学生が中心となって、NPO 法人「やまぼうし」と連携し、障害者との協働による就業支援やイベント実施などを通じて地域住民への貢献を目指しています。(写真は Star★Shops での様子)。

5) 奨学金制度の充実（経済的支援体制の充実）

- ・ 大学内での就業体験を伴う勤労奨学金制度では、経済的支援のほか、奨学生の管理部署と受入部署が連携して、就業意識の向上を図るための学生指導体制を充実させます。
- ・ 大学独自の奨学金や学費減免制度等を継続するとともに、更に充実させるための検討を行います。また、本学の40周年記念の奨学金募金事業によって得られた資金による奨学事業を継続します。
- ・ 「東日本大震災」の被災学生への経済的支援を継続します。

6) 学生の実態把握と情報の適切な管理・活用による学生支援・指導体制の強化

- ・履修状況、成績状況、出席状況、学籍状況、学友会参加状況など個別情報を一元的に管理する「学生カルテ」を個人情報保護の観点からの管理体制を強化しながら活用し、教職員が連携した、きめ細かい学生の個別指導体制を構築します。
- ・総合健康センターにおける、学生（教職員も含む）の健康管理とメンタルケアをさらに充実するとともに、学生対応部署の初回面談者のスキル等を向上させ、学生生活全般の支援体制を向上させます。

○ 大学の国際化の推進にむけた外国人留学生の受け入れ拡大と支援体制整備

1) 外国人留学生の受け入れ拡大と支援体制整備

- ・海外学術交流提携校との交流を充実させるとともに、国内にある日本語学校との交流を活性化し、受け入れ留学生の拡大を図ります。
- ・新たに設置した「留学生支援課」における支援体制を確立するとともに、奨学金等の経済的支援体制を充実させます。
- ・留学生に魅力のある科目設置等、学部学科における外国人留学生受け入れ体制について検討を進めます。

2) 海外留学支援体制の整備

- ・外国人留学生の受け入れと同様に海外学術交流提携校との交流を充実するとともに、国際教育センターにおいて支援体制を充実させます。

3) 「孔子学院」開設準備

- ・中国語教育の充実を図るとともに、中国語、中国文化の発信による地域貢献を行います。

○ 大学院の充実と検討

- 1) 各研究科・専攻の人材養成の目標と教育課程や指導体制の関係を検証します。
- 2) 学部学科の大幅な改組改編に伴う大学院の改組の必要性等について検討します。
- 3) セメスター制・GPA制度の導入・運営に関する検討を継続します。
- 4) 秋入学制度の導入に伴う受け入れ体制の整備を行います。
- 5) 海外学術交流提携校からの留学生受け入れ等、連携体制の充実に関する方策を検討します。

○ 通信教育課程の充実

1) 通信教育部の管理運営体制の強化

- ・通信教育部を主に所掌する副学長を配置し、より一層の管理運営体制の強化を図ります。
- ・質の高い中等教育教員を養成するため、免許取得に係る教育課程を適切に運営します。

2) 通信教育部と通学課程との連携強化

- ・通信教育課程と通学課程の連携を強化し、教職免許や各種資格の取得に関する、双方の学生の学習条件、環境の向上を図ります。

○ 第4次改組改編計画の遂行

1) 新設学部設置に向けた教育体制の検討

- ・ 理事会における基本方針に基づく 2014（平成 26）年度開設予定の新設学部の教育体制の具体化に向けた検討等、学部設置の準備を推進します。

2) キャンパス再開発計画の推進

- ・ 新設学部の充実した教育環境を実現するためのキャンパス再開発に着手します。

(2) 保護者への価値提供に関する事業

○ 学生の成長過程についての情報を共有

1) 保護者への積極的な情報提供による連携強化

- ・ 学生カルテ、学習ポートフォリオ等を活用した学生の個別指導の内容や授業の出席状況等の情報を、定期的に提供する体制を整備します。
- ・ 個人情報保護を踏まえながら、Web を活用した情報提供方法に関する検討に着手します。

2) 保護者の大学への満足度調査の実施

- ・ 大学の取り組みに対する保護者の意見・要望を調査し改善に繋がります。

3) 育星会との連携強化

- ・ 育星会事務局と連携し、保護者と教職員が直接コミュニケーションをとれる、育星会総会および地区懇談会の内容を充実し、参加率の向上を目指します。

(3) 高校教員及び高校生への価値提供に関する事業

○ 安心して進学を推奨できる大学としての評価の確立

1) 効果的な募集・広報活動の展開（志願者確保に向けた取り組み）

- ・ 前年度の学生募集活動や市場としての高校生数、進学率、進学動向、家計状況、他大学の動きなどに関する情報の収集と分析に基づく適切な募集・広報活動を展開します。
- ・ 各種媒体（大学案内・リーフレット・HP 等）を通して積極的に情報提供を行います。
- ・ 教職員による高校訪問等の営業、マーケティング活動を行います。
- ・ オープンキャンパスなどのイベントを開催し、受験生や保護者との接触を増やします。
- ・ イベントにおける企画や広報媒体など女子学生確保に重点を置いた事業を充実します。

2) 学生受け入れ体制の整備

- ・ 推薦、A0 入試で入学する学生への入学前教育を更に充実させ、入学時の学生の基礎学力や大学生としての意識の向上に繋がります。（高大接続）
- ・ スカラシップ制入試を引き続き実施します。

3) コミュニケーションの強化による高大連携の充実

- ・ 高校ニーズの把握と的確な情報提供のために接触回数を増やします。
- ・ 高校のニーズを反映した入学前教育等の高大連携の取組みを積極的に行います。

(4) 地域・企業との連携に関する事業

○ 地域・企業のニーズに応える人材・知財の提供

1) 多摩地区の有力中堅企業との連携強化

- ・ 多摩信用金庫との情報交換および連携を進めます。
- ・ 多摩地区企業内定先への企業訪問を行います。

- ・ 多摩地区企業を集めたセミナーを実施します。
 - ・ 日野市、八王子市、青梅市等の地域市役所や商工会や、ネットワーク多摩等との連携を進めます。
- 2) 地域・企業とのコミュニケーション強化
- ・ 企業ニーズの把握と的確な情報提供のための接触回数を増やし関係を強化します。
 - ・ 企業や学生の希望やニーズを反映した「企業と大学の情報交換会」、「学内合同企業セミナー」等のイベントを充実させます。
 - ・ 同窓会組織との連携を通じた企業とのコミュニケーション強化の準備を進めます。
- 地域・企業へ人材・知財を供給するための体制整備
- 1) 産学公、地域連携の推進
- ・ 連携研究センターにおいて、知財管理の強化を図り、多摩 TLO、ネットワーク多摩、多摩地域を主とする企業、経済産業省等の官庁、日野・青梅・八王子などの地方自治体との連携をさらに深め、積極的に人材・知財を提供します。
 - ・ 学内シーズを積極的に発掘し、シーズ集として取り纏めて社会に発信します。
- 2) 大学資産（知財・図書）の積極的活用による地域貢献
- ・ 大学所蔵の文化的・歴史的価値の高い貴重書等を社会に公開する体制を整備します。

(5) 教職員の能力向上に関する事業

○ 教職員の能力向上と体制整備

- 1) 教育研究活動の主体である教育研究態勢の支援に資する施策の展開
- ・ 教育研究活動の主体である、教育研究態勢の構築に向けた具体策の策定に着手します。
 - ・ 質の高い教育を継続的に提供するための教員構成に関する基本方針を策定します。
 - ・ 豊富な実務経験を持つ教員が効果的に学生指導できる環境・支援体制を整備します。
- 2) FD 活動の推進
- ・ 全学的な FD 活動として、授業内容、教育方法の改善に関する包括的な研修を行います。
 - ・ 部局別の FD 活動として、部局の専門性を考慮した授業スキル等に関する研修を計画的に行います。
 - ・ 新任教員に対して、本学の教育方針や教学諸事項に関する学内研修を行います。また、外部研修等へ積極的に派遣します。
 - ・ 学生による授業アンケートを活用した改善活動やピアレビューを促進します。その一環として、授業公開や研究授業を実施します。
- 3) 職員研修の充実
- ・ 「仕事を通じて自分を育て、人を育てる職場環境」を基盤として、長期的視野にたった体系的・継続的教育の取り組みを行います。
 - ・ 目指す職員像を明確にした目的別の全学および対象者別（若手職員・ミドル層・全職員）の職員研修を実施します。
 - ・ 部署別 SD 活動を活性化し、業務知識、スキルの向上を図り、学生支援体制を強化します。

- ・ 外部機関による通信教育講座の受講や国内留学等を支援・促進し、専門的スキルの向上を図ります。

(6) 事業推進のための基盤整備に関する事業

○ 事務組織の再編による機能強化

- 1) 全学的な広報戦略機能強化に向けた体制・制度を構築します。
- 2) 特に外国人留学生の支援体制を強化・充実させるための体制を構築します。
- 3) 大学全体の教育目標達成にむけた効果的な体制の整備と業務の遂行に努めます。

○ 全学的な企画立案と全学戦略推進体制の整備

- 1) MI21 推進会議の全学的戦略の企画・立案・推進機能の充実を図ります。
- 2) MI21 推進会議を積極的に機能させて、各 SDU（戦略推進単位）の相互理解や取組みを促進し、プロジェクトの効果的な推進に努めます。

○ 全学的な情報共有と情報公開体制の整備

1) 教職員共同研修の実施

- ・ 教職協働意識の醸成のため、大学の運営に関する教職員に共通する直近の課題をテーマにした教職員合同研修等を行います。

2) 学内基本情報の共有体制の整備

- ・ グループウェアやポータルサイト等を活用した情報共有体制を充実させます。
- ・ MI21 プロジェクトに関する情報の管理体制を充実させるとともに、学内の基本情報を「MI INFORMATION」をとおして教職員に発信します。

3) 社会への教育情報公開体制の整備

- ・ 学校教育法施行規則の一部改正に適切に対応し、教育情報を社会に対して公開する体制整備を進めます。

4) 戦略的情報発信体制の整備

- ・ 新たに設置した広報室による中長期広報戦略の策定等、学内外に向けて有効かつ効率的に情報を発信する体制を構築します。
- ・ 本学の特色である「教育の明星」を積極的に発信する広報活動を展開していきます。

○ 全学的なコンプライアンス体制の強化やリスク管理の強化

1) 個人情報管理体制の強化

- ・ 大学保有の個人情報の学外への不適切流出を回避するための体制やシステムを強化します。

2) コンプライアンス体制の強化

- ・ 研究費の適正執行やキャンパスハラスメント撲滅に向けた全学的なコンプライアンス意識醸成に向けた取組みを強化・充実させます。

3) 事業継続体制の整備

- ・ 学生データの保全対策や備蓄品の充実など、災害時の危機管理体制の整備に着手します。

④ 大学の収支・財政に関する取り組み

(1) 学納金の収入水準の維持

○ 入学定員の確保（学生募集活動の強化）

- ・ 「教育の明星」や「体験教育」等、学部学科の特色を明確にした広報活動を強化します。
- ・ オープンキャンパスや大学見学会の内容を精査し、内容を充実させます。
- ・ 本学のアドミッションポリシーを理解し、目的意識の高い学生の入学を促すために、推薦系も含めた入試方法等の再検討および改善を行います。
- ・ 通信教育部においては、中等教員免許取得課程を軸に学生募集活動を強化します。

○ 学生支援体制の充実による離籍者抑制

- ・ 学生情報の管理体制を充実させ、きめ細かい支援体制を構築します。
- ・ 離籍要因の分析結果に基づく対策を策定し実行します。
- ・ 学生生活全般に対する支援体制及び環境の整備を推進します。
(奨学金の充実、心と体の健康促進、ピアサポートシステムの構築等)
- ・ 基礎学力の向上を目的としたリメディアル教育の内容や方法の見直し、留年抑止を図ります。

(2) メリハリの利いたコストコントロール制度の構築

○ 事業計画に基づく予算配分

- ・ 大学の方針、事業計画に沿った事業への予算配分率を高めます。
- ・ 予算申請内容および執行内容を適切に判断できるような体制を構築します。
- ・ MI21 関連事業への重点予算配分に関する検討を進めます。

○ 部局管理予算の適正化

- ・ 学部単位で配分される予算が教育活動に有効に活用されるよう啓蒙活動を行います。
- ・ 教育研究活動におけるP D C Aを確立するための体制整備に着手します。

(3) 外部資金の獲得

○ 科研費等の獲得

- ・ 科研費、委託研究費、国および民間の各種助成金等の獲得に向けた支援体制を構築します。
今年度は特に科研費の獲得に注力した支援を推進します。
- ・ 外部資金獲得を目指す教員へのインセンティブ制度を継続します。
- ・ 本学の特色ある研究成果、実績への外部資金の獲得に向けた活動を継続して行います。
- ・ 学内シーズ、学外ニーズ情報に基づくマッチング活動の充実を図ります。

⑤ 施設設備の整備や環境対策に関する取り組み

(1) 改組改編に伴う施設設備の整備

1) 学年進行中の学部学科の環境整備

- ・ 2010（平成 22）年度の改組改編に関連した日野校、青梅校の教室環境等の整備を行います。
- ・ 2012（平成 24）年度開設の新学部学科に関連した施設設備等の充実を図ります。

2) 学部設置に向けた環境整備

- ・ 2014（平成 26）年度開設予定の新学部の教育環境を充実させるための、キャンパス再開発に着手します。

(2) 地球温暖化対策

- ・ 法令や条例による地球温暖化対策規制に対する、本学の低炭素化システムを構築します。
- ・ 低炭素化活動を通じた環境教育を推進します。

【教育研究を支える図書館】



図書館は、「図書館が学生にとって快適な居場所であってほしい」との願いから、「滞在型」をテーマにしています。余裕のある閲覧コーナーや学習スペースに加え、人や情報と気軽に触れ合えるフロアも設けられています。

⑥ 業務改善に関する取り組み

(1) 管理業務の効率化の推進

1) 現行業務の抜本的見直し

- ・ 学生支援業務や戦略的業務の推進体制を充実させるため、昨年度実施した業務分析結果を基に現行業務の抜本的な見直しを図ります。

2) 定型業務のマニュアル化の推進

- ・ 効率的な業務推進体制の構築に向けて、定型業務のマニュアル化や文書の定型化等の施策を推進します。

V 2012 年度予算の概要

1. 予算編成方針

2012 年度予算編成については、前年度に引き続き中期財務計画内における収支の均衡を図ることを財務運営の基本方針として、明星大学、いわき明星大学、府中各校（明星中学高等学校、明星小学校、明星幼稚園）それぞれの数値目標に見合う予算編成を行いました。

収入については、明星大学における教育学部に続く経営学部設置の改組改編に伴い、学生生徒等納付金の収入増を見込んでいます。

支出については、前年度に引続き東日本大震災および原発問題に関連して、学生支援のための奨学金支出等を見込んでいます。また、人件費については、前年度と比べ減少を見込んでいますが、これは退職金の減少が大きな要因となっています。

経常的経費の見直しや計画的な施設設備の投資により、収入に見合うように支出の抑制を行い、今後も安定的な収入の確保と効率的、効果的な資源配分の実施により財務基盤・経営基盤の強化に努めてまいります。

2. 予算編成の結果

① 資金収支について

資金収支予算書については、別表 2 のとおりです。

学生生徒等納付金収入は、前年度予算と比較して 324 百万円増の 14,753 百万円を計上しました。補助金収入は前年度予算比 59 百万円減の 2,336 百万円を計上しました。

人件費支出については、前年度予算比 218 百万円減の 10,492 百万円を計上し、そのうち教職員等的人件費支出については前年度予算比 120 百万円の増、退職金支出については前年度予算比 338 百万円の減となりました。

教育研究経費支出は前年度予算比 510 百万円減の 4,049 百万円、管理経費支出は 198 百万円減の 1,436 百万円を計上しました。施設関係支出は前年度予算比 83 百万円減の 112 百万円、設備関係支出は 47 百万円増の 318 百万円を計上しました。

この結果、収入支出の合計は前年度予算比 1,028 百万円減の 29,752 百万円となり、次年度繰越支払資金は、前年度予算比 181 百万円増の 7,348 百万円となりました。

② 消費収支について

消費収支予算書については、別表 3 のとおりです。

帰属収入合計については、前年度予算と比較して 78 百万円減の 18,167 百万円を計上しましたが、これは学生生徒等納付金は増加しているものの、雑収入に計上している私学退職金財団および私学退職金団体からの退職金受入が減少したことなどによるものです。基本金組入額合計は、79 百万円を計上し、帰属収入合計から基本金組入額合計を差し引いた消費収入の合計は、前年予算比 63 百万円減の 18,088 百万円となりました。

一方、人件費、教育研究経費および管理経費等の消費支出の合計については、20,302 百万円を計上し、前年予算比 1,050 百万円の減少となりました。

この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支については、2,214 百万円の消費支出超過となりました。また、当年度消費支出超過額と前年度繰越消費支出超過額を合計した翌年度繰越消費支出超過額は、22,895 百万円となりました。

別表1 過去2年間学生生徒等在籍者数

	2010年度 (2010年5月1日現在)			2011年度 (2011年5月1日現在)			10度からの在 籍者数の 増減	備 考
	在籍者数	収容定員	充足率	在籍者数	収容定員	充足率		
明星大学	14,345	16,123	0.89	14,568	16,123	0.90	223	
通学課程 計	7,700	8,054	0.96	8,132	8,054	1.01	432	
通信課程 計	6,645	8,069	0.82	6,436	8,069	0.80	△ 209	
大学院	258	403	0.64	213	403	0.53	△ 45	
理工学研究科	89	175	0.51	68	175	0.39	△ 21	09年度土木工学専攻廃止
人文学研究科	64	116	0.55	52	116	0.45	△ 12	
人文学研究科(通信)	79	69	1.14	71	69	1.03	△ 8	
情報学研究科	11	23	0.48	8	23	0.35	△ 3	
経済学研究科	15	20	0.75	14	20	0.70	△ 1	
学部 計	7,521	7,720	0.97	7,990	7,720	1.03	469	
理工学部	1,415	1,990	0.71	1,556	1,860	0.84	141	
総合理工学科	398	400	1.00	855	800	1.07	457	10年度開設
物理学科	145	240	0.60	103	160	0.64	△ 42	10年度募集停止
化学科	173	300	0.58	140	200	0.70	△ 33	10年度募集停止
機械システム工学科	164	300	0.55	114	200	0.57	△ 50	10年度募集停止
電気電子システム工学科	136	300	0.45	81	200	0.41	△ 55	10年度募集停止
建築学科	233	240	0.97	152	160	0.95	△ 81	10年度募集停止
環境システム学科	153	210	0.73	102	140	0.73	△ 51	10年度募集停止
機械工学科	5	-	-	3	-	-	△ 2	05年度募集停止
電気工学科	6	-	-	6	-	-	0	05年度募集停止
土木工学科	2	-	-	0	-	-	-	11年度廃止
人文学部	2,286	2,070	1.10	2,225	1,980	1.12	△ 61	
国際コミュニケーション学科	520	520	1.00	498	480	1.04	△ 22	10年度定員変更
日本文化学科	110	100	1.10	226	200	1.13	116	10年度開設
人間社会学科	535	500	1.07	492	440	1.12	△ 43	10年度定員変更
福祉実践学科	40	60	0.67	107	120	0.89	67	10年度開設
心理学科	133	110	1.21	252	220	1.15	119	10年度開設
英語英文学科	3	-	-	2	-	-	△ 1	05年度募集停止
心理・教育学科	945	780	1.21	648	520	1.25	△ 297	10年度募集停止
経済学部	2,051	1,760	1.17	2,070	1,760	1.18	19	
経済学科	1,311	1,120	1.17	1,296	1,120	1.16	△ 15	
経営学科	740	640	1.16	774	640	1.21	34	
情報学部	710	680	1.04	779	680	1.15	69	
情報学科	705	680	1.04	777	680	1.14	72	
電子情報学科	3	-	-	2	-	-	△ 1	05年度募集停止
経営情報学科	2	-	-	0	-	-	-	11年度廃止
日本文化学部	236	300	0.79	167	200	0.84	△ 69	
言語文化学科	235	300	0.78	167	200	0.84	△ 68	10年度募集停止
造形芸術学科	1	-	-	0	-	-	-	11年度廃止
造形芸術学部	431	600	0.72	395	600	0.66	△ 36	
造形芸術学科	431	600	0.72	395	600	0.66	△ 36	
教育学部	392	320	1.23	798	640	1.25	406	10年度開設
教育学科	392	320	1.23	798	640	1.25	406	10年度開設
通信教育部	6,566	8,000	0.82	6,365	8,000	0.80	△ 201	
いわき明星大学	1,984	2,561	0.77	1,928	2,517	0.77	△ 56	
大学院	42	141	0.30	39	117	0.33	△ 3	
理工学研究科	22	85	0.26	20	61	0.33	△ 2	11年度定員変更
人文学研究科	20	56	0.36	19	56	0.34	△ 1	
学部 計	1,942	2,420	0.80	1,889	2,400	0.79	△ 53	
科学技術学部	508	720	0.71	494	610	0.81	△ 14	
科学技術学科	131	130	1.01	238	260	0.92	107	10年度開設
生命環境学科	144	210	0.69	102	130	0.78	△ 42	10年度募集停止
電子情報学科	157	200	0.79	101	120	0.84	△ 56	10年度募集停止
システムデザイン工学科	76	180	0.42	53	100	0.53	△ 23	10年度募集停止
理工学部	3	-	-	0	-	-	-	11年度廃止
電子情報学科	2	-	-	0	-	-	-	11年度廃止
機械工学科	1	-	-	0	-	-	-	11年度廃止
人文学部	1,108	1,100	1.01	1,035	1,100	0.94	△ 73	
表現文化学科	343	360	0.95	306	360	0.85	△ 37	07年度定員変更
言語文化学科	2	-	-	1	-	-	△ 1	11年度廃止
現代社会学科	340	380	0.89	299	380	0.79	△ 41	
心理学科	423	360	1.18	429	360	1.19	6	
薬学部	323	600	0.54	360	690	0.52	37	07年度開設
薬学科	323	600	0.54	360	690	0.52	37	11年度定員変更
明星高等学校	839	-	-	887	-	-	48	
明星中学校	621	-	-	580	-	-	△ 41	
明星小学校	692	-	-	662	-	-	△ 30	
明星幼稚園	266	-	-	261	-	-	△ 5	

別表2 資金収支予算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減(▲)
学生生徒等納付金収入	14,753	14,429	324
手数料収入	372	384	▲ 12
寄附金収入	25	22	3
補助金収入	2,336	2,395	▲ 59
資産運用収入	353	351	2
資産売却収入	4,173	4,275	▲ 102
事業収入	100	175	▲ 75
雑収入	179	412	▲ 233
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,591	2,850	▲ 259
その他の収入	1,060	1,499	▲ 439
資金収入調整勘定	▲ 3,358	▲ 3,289	▲ 69
前年度繰越支払資金	7,167	7,276	▲ 109
収入の部合計	29,752	30,780	▲ 1,028

支出の部			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減(▲)
人件費支出	10,492	10,710	▲ 218
(教職員等人件費支出)	10,338	10,218	120
(退職金支出)	154	492	▲ 338
教育研究経費支出	4,049	4,559	▲ 510
管理経費支出	1,436	1,634	▲ 198
借入金等利息支出	1	0	1
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	112	195	▲ 83
設備関係支出	318	271	47
資産運用支出	4,975	5,075	▲ 100
その他の支出	1,506	1,644	▲ 138
[予備費]	500	500	0
資金支出調整勘定	▲ 985	▲ 974	▲ 11
次年度繰越支払資金	7,348	7,167	181
支出の部合計	29,752	30,780	▲ 1,028

※百万円未満四捨五入のため一部端数に差異が生じています。

別表3 消費収支予算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減(▲)
学生生徒等納付金	14,753	14,429	324
手数料	372	384	▲ 12
寄附金	60	47	13
補助金	2,336	2,395	▲ 59
資産運用収入	353	351	2
資産売却差額	14	52	▲ 38
事業収入	100	175	▲ 75
雑収入	179	412	▲ 233
帰属収入合計	18,167	18,245	▲ 78
基本金組入額合計	▲ 79	▲ 95	16
消費収入の部合計	18,088	18,151	▲ 63

支出の部			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減(▲)
人件費	10,535	10,604	▲ 69
教育研究経費	7,487	8,208	▲ 721
管理経費	1,767	1,978	▲ 211
借入金利息	1	0	1
資産処分差額	12	62	▲ 50
予備費	500	500	0
消費支出の部合計	20,302	21,352	▲ 1,050
当年度消費支出超過額	2,214	3,201	
前年度繰越消費支出超過額	20,681	17,480	
翌年度繰越消費支出超過額	22,895	20,681	

※百万円未満四捨五入のため一部端数に差異が生じています。